源　流

第２２９号　　教育長　　儘田　文雄

学習指導要領改訂に向けた論点 9

現行の「個に応じた指導」の記述と充実の在り方

● 現行の学習指導要領においても、児童生徒の発達の支援の観点から「個に応じた指導」は重要視され、個別学習やグループ別学習など、一定の指導方法の具体例の記載もあるが、令和３年１月 26 日中央教育審議会答申の趣旨等も踏まえると、**学習者自身が主体的に学習を調整**していく観点からの記述が不足。

● 子供が興味・関心や能力・特性等に応じて自ら教材・方法・ペース等を選択できる学習環境を教師が適切にデザインすることなど、学習者が主体的に学ぶ中で、**自ら学習を調整**しつつ資質・能力を身に付けることの重要性やその中で**教師が発揮すべき指導性**について、具体的に議論し、位置付けを検討すべき。

● 多様な個性・特性を有する全ての子供に資質・能力を育成する上で子供一人一人を見取り、適切な指導や関わりを行う教師の指導性はより積極的かつ高度なものが求められるし、時には**教師が主導**することが重要な場面もある。「教師は教えなくてもいい」「全て子供に委ねればよい」といった誤ったメッセージとして伝わることのないよう、最大限の注意を払うべき。

「今後の教育課程、学習指導及び学習評価等の在り方に関する有識者検討会　論点整理」（令和６年９月１８日）

尊敬される人

実業家　渋沢栄一

人は才能や力量ばかりでは、永く人を心服せしむる事は出来ぬ。人に忍びざる心ありて、同情に富む人がよく人に懐（なつ）かれて、永久に尊敬せらるるのである。

出典：「渋沢栄一　一日一言　人間力を高める言葉」（致知出版社）

※　その人の人間性が問われるのだと考えます。年齢とともに、人としての「器」を広げたいものです。